

# 緊急事態宣言下における 別居家族とのコミュニケーション機会の変化①

— 女性で顕著なオンラインコミュニケーションの増加 —

主任研究員 北村 安樹子

当研究所では、全国に先行する形で発令された7都府県への緊急事態宣言の直前にあたる2020年4月3日～4日に「第1回新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査」を行った。続く第2回調査は、4月中旬に緊急事態宣言の対象地域が全国へと拡大されてからその一部解除が決まる直前の5月15日～16日に行ったものである\*1。全国の20～69歳の男女1,000名を対象に行ったこれらの調査はいずれも、新型コロナウイルスの感染拡大にともなう回答者の生活や意識の変化についてたずねている。本稿では第2回調査に基づき、緊急事態宣言の対象地域が全国に拡大された4月中旬以降における、別居家族とのコミュニケーション機会の変化の実態に注目する。

## <回答者の3割弱で、「直接会って、一緒に過ごす時間」が減少>

第2回調査では、4月中旬頃と比べた別居家族とのコミュニケーション機会の変化として、「直接会って、一緒に過ごす時間」「電話やメールでコミュニケーションすること（音声や文字のみ）」「写真や動画を用いてコミュニケーションすること」の3つの側面に関する状況についてたずねている。

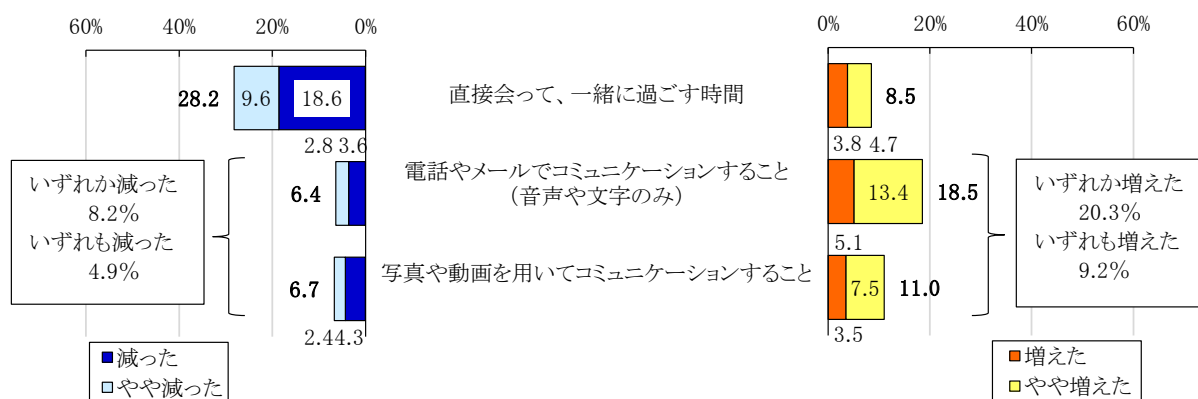
このうち「直接会って、一緒に過ごす時間」については、回答者全体の3割弱が減った（「減った」「やや減った」の合計）と答え、増えた（「増えた」「やや増えた」の合計）と答えた人（8.5%）を上回った（図表1）。双方を合わせると、別居家族と「直接会って、一緒に過ごす時間」に何らかの変化があった人は、回答者全体の4割弱を占める。回答者全体では、「直接会って、一緒に過ごす時間」に変化がなかった人の方が多いものの、別居家族との対面接触機会や対面時の過ごし方に、何らかの形で影響があった人も少なくなかったと考えられる。

## <回答者の約2割で、オンラインコミュニケーションが増加>

一方、「電話やメール」「写真や動画」を用いたオンラインコミュニケーション\*2についての回答をみると、増えたと答えた人は前者が2割弱、後者が1割強であり、いずれも減ったと答えた人を上回っている。先に見た「直接会って、一緒に過ごす時間」では「変化なし」と答えた人が6割強であったのに対し、これらのオンラインコミュ

コミュニケーションに関しては8割前後が「変化なし」と答えている。オンラインコミュニケーションに比べ「直接会って、一緒に過ごす時間」は、外出や対面接触の自粛等の影響を受けやすいためだと考えられる。

図表1 4月中旬頃に比べた、別居家族とのコミュニケーション機会の変化



注：設問文は『「緊急事態宣言」の対象地域が全国に拡大された4月中旬頃に比べて、あなたの生活にはどのような変化がありましたか。もともとそれをおこなっていない方は「変化なし」を選んでください』

資料：第一生命経済研究所「第2回新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査」2020年5月実施。調査対象者は全国の20～69歳男女1,000人。調査方法はインターネット調査。

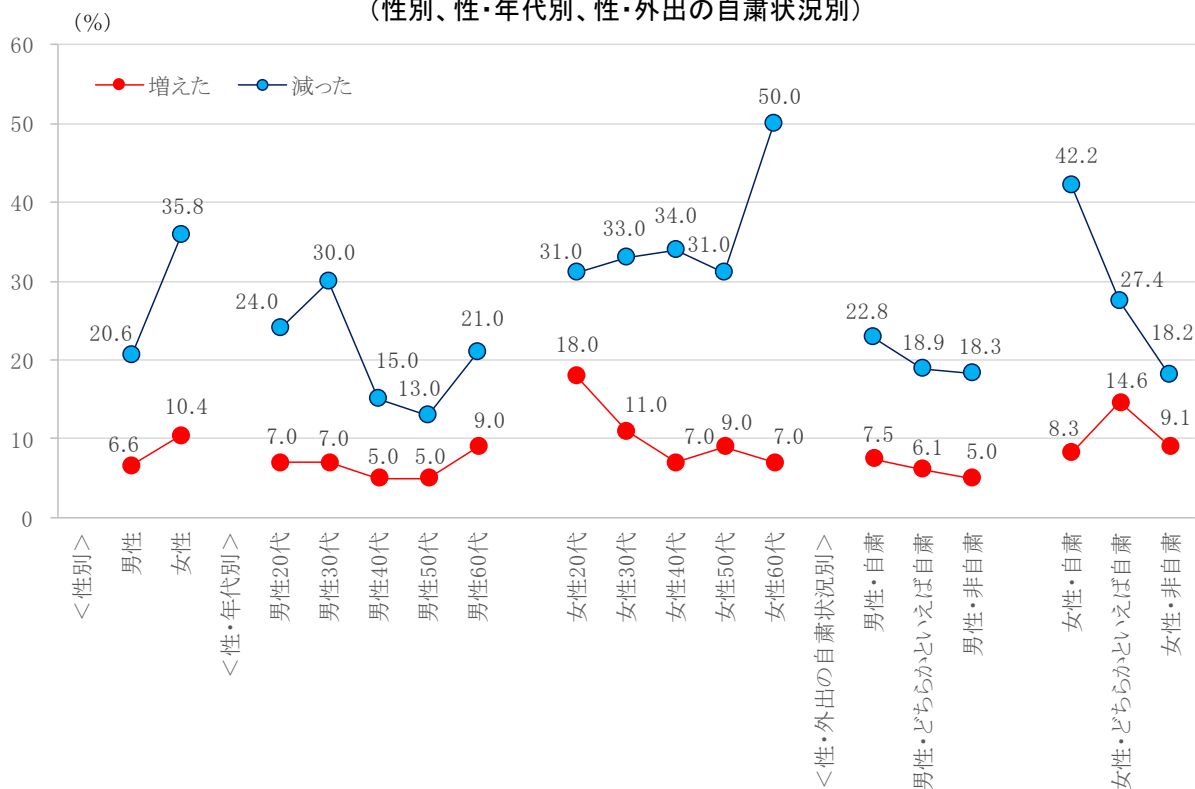
### <「直接会って、一緒に過ごす時間」～減ったと答えた人は女性で顕著>

実際に、別居家族と「直接会って、一緒に過ごす時間」についての回答状況を性年代別にみると、性別や年代にかかわらず、減ったと答えた人が増えたと答えた人を上回っている（図表2）。減ったと答えた人の割合は、男性より女性で高く、最も高かった60代女性では半数を占める。

また、外出の自粛状況別にみた場合、男性では自粛状況による差が小さいのに対し、女性では自粛している人で減ったと答えた人の割合が高い。女性の場合、別居家族と対面して会う場所や、時間を過ごす場所が自宅ではなく外出先であることが多いこと、男性に比べ自分の側が外出して別居家族と会う人が多いこと等が示唆される。

なお、20代女性では減ったと答えた人が約3割を占めるなか、増えたと答えた人も2割弱を占め、男性や他の年代の女性に比べ高くなっている。20代女性には、外出を自粛しながらも、何らかの理由で別居家族と「直接会って、一緒に過ごす時間」が増えた人、もしくは増やした人が男性や他の年代に比べ多いと推測される。

図表2 4月中旬頃に比べた、別居家族と「直接会って、一緒に過ごす時間」の変化  
(性別、性・年代別、性・外出の自粛状況別)



注：外出の自粛状況は、「必要な時以外、家から出ないようにしている」について「あてはまる」とした人を「自粛」、「どちらかといえばあてはまる」とした人を「どちらかといえば自粛」、「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」とした人を「非自粛」とした。

資料：図表1に同じ

## ＜「電話やメール」「写真や動画」を用いてコミュニケーションすること

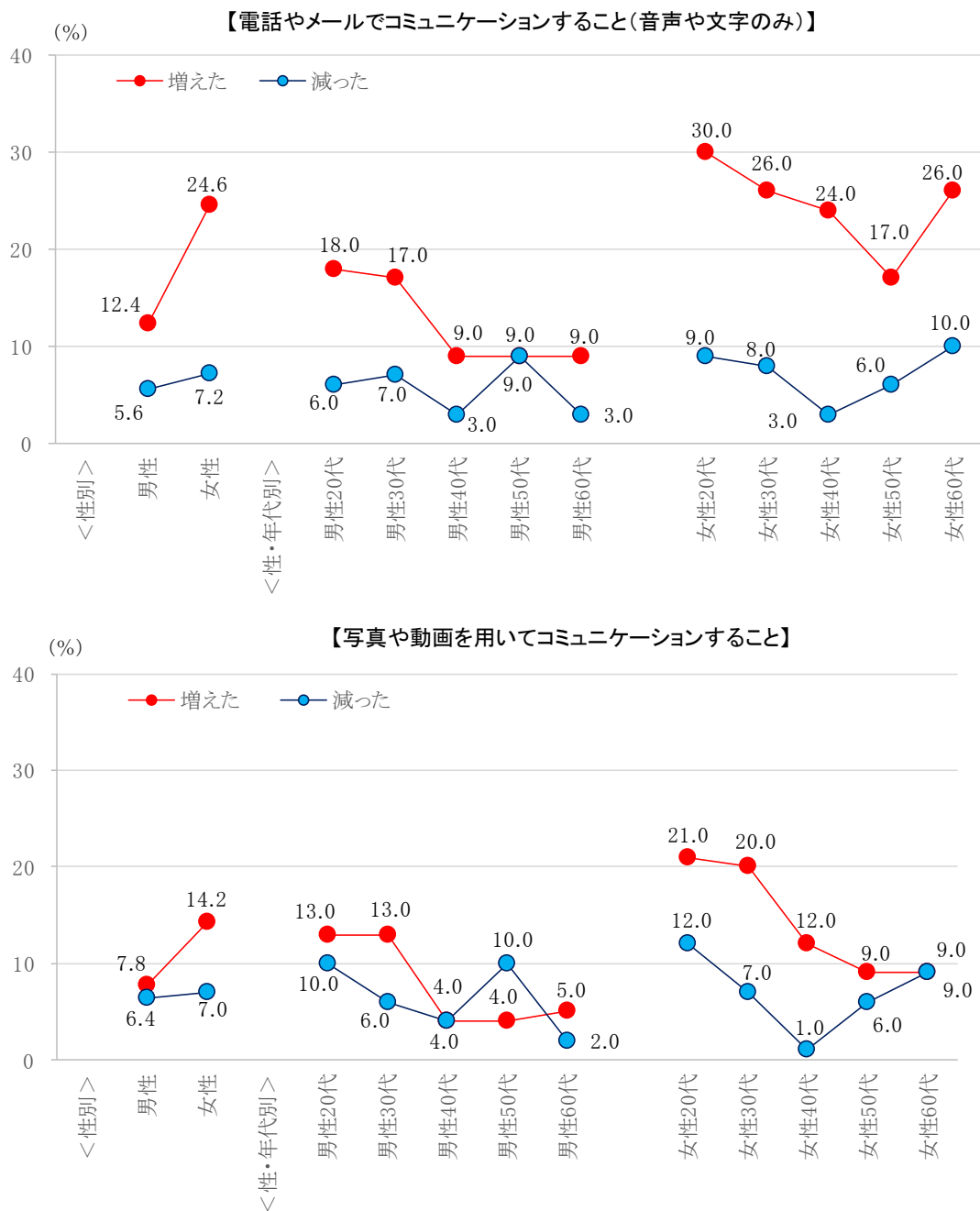
～増えたと答えた人は女性で顕著～

一方、「電話やメール」「写真や動画」を用いたコミュニケーションの状況について詳細をみると、増えたと答えた人の割合は20～30代の若い女性で高く、前者は3割前後、後者は約2割を占める（図表3）。増えたと答えた人の割合は、男性に比べ女性において高く、このような男女差は「写真や動画」に比べ「電話やメール」を用いたコミュニケーションでより顕著にみられる。

また、これらのオンラインコミュニケーションが減ったと答えた人の割合は、20代女性を除きおおむね1割以下にとどまっている。4月以降、別居家族とのオンラインコミュニケーションが減った人は、回答者全体に占める割合としては限定的であり、増えた人は若い人でより多くなっている。

なお、「直接会って、一緒に過ごす時間」が減った人では、オンラインコミュニケーションが増えたと答えた人の割合が高いなど、これらのオンライン・オフラインコミュニケーションの状況には関連性がみられた。この点については、次稿で考察する。

図表3 4月中旬頃に比べた、別居家族とのオンラインコミュニケーションの変化  
(性別、性・年代別)



注・資料は図表1に同じ

(ライフデザイン研究部 きたむら あきこ)

**【注釈】**

\*1 第1回・第2回調査の概要や主な調査結果については、当研究所発行の以下のリリースを参照されたい。

<第1回調査>

「新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査（前編）」

[http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2004\\_01.pdf](http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2004_01.pdf)

「新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査（後編）」

[http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2004\\_02.pdf](http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2004_02.pdf)

<第2回調査>

「第2回 新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査（働き方編）」

[http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2005\\_02.pdf](http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2005_02.pdf)

「第2回 新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査（消費編）」

[http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2005\\_03.pdf](http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2005_03.pdf)

「第2回 新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査（健康編）」

[http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2005\\_04.pdf](http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2005_04.pdf)

「第2回 新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査（つながり編）」

[http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2005\\_05.pdf](http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2005_05.pdf)

\*2 本稿では、「写真や動画を用いてコミュニケーションすること」をオンラインコミュニケーションとして分析した。

\*弊社ホームページの「新型コロナウイルス意識調査特集ページ」にてこれまでに実施した調査データや関連レポートを公開しています。

[http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/ldi/total.cgi?key1=v\\_year](http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/ldi/total.cgi?key1=v_year)